



学校だより

令和5年度 4月号
横浜市立庄戸小学校

笑顔がかがやく 子どもが主役の学校

～感動いっぱい 夢いっぱい 一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～
庄戸小ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shodo>



令和5年度が始まりました！

「ありがとう」という言葉を大切に！

校長 山口 洋幸

庄戸小学校の校門の左右にある桜も、新入生の入学を心待ちにしているかのように花びらを残してくれました。新しい出会いに胸を膨らませる新年度が始まりました。お子さまのご入学、ご進級、誠にありがとうございます。

このたび、鈴木則男校長の後を受け、着任しました山口洋幸と申します。よろしく申し上げます。4月7日には新しく着任された先生方を迎えるとともに、39名の新入生が庄戸小学校に仲間入りをし、全校287名でスタートします。

学校教育目標 「笑顔がかがやく 子どもが主役の学校」

～感動いっぱい 夢いっぱい 一人ひとりのよさや可能性を引き出す教育を推進します～

(知) ねばり強く取り組む子 (徳) みとめ合う子 (体) たくましい子

(公) あいさつする子 (開) 大好き 庄戸

さて、コロナ禍の約三年間の教育活動の中で、「ありがとう」という言葉が私の頭に何度も浮かんできました。「ありがとう」の語源は「有難い」だと言われています。元々はめったにないや珍しい、また、当たり前ではないという意味で使われていて、江戸時代くらいから、感謝するときや嬉しいときに使うようになったそうです。私は体育主任を長年してきたので、演技・競技・徒競走・応援団・リレーや開閉会式などの練習を子ども達と力一杯して、当日は保護者や地域の方々に大きな声援を送って参観していただくことが毎年楽しみで仕方ありませんでした。しかし、この三年間は運動会の開催自体が危ぶまれてきました。また、全校での実施や保護者の方々の参観ができない学校も残念ながらありました。今まで当たり前だと思っていたことが実はそうではなかったと思い知らされた三年間でした。今年度は学校行事の多くを今までのように実施できたり、授業参観等での子どもたちの学習の様子をより多くの時間、保護者の方々に見ていただけたりするようになります。私は感謝と嬉しいという思いを改めて感じています。

子どもたちには、何気ない日常が送れていることや人に何かをしてもらうことは「当たり前」ではなく、多くの方々の工夫や努力、また、そこに込められた相手の思いや気持ちがあることに気付き、「ありがとう」という言葉を大切にしたいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、今年度もこれまで同様の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

